

ラーニングテクノロジー開発室

ニュースレター

WebCT活用授業レポート 八王子キャンパス特集

今回は、情報処理センターのご協力を得て、八王子キャンパスでのWebCT活用についてレポートします。

学生と「共に創る」授業でのWebCTの活用



文学部教育学科の土屋千尋先生にお話をうかがいます。

LT どのようにお使いになっているのでしょうか。

土屋先生 全部の科目で使っています。「異文化コミュニケーションII」という科目では、異文化の理解に焦点をあて、授業中のディスカッションとその後の振り返り活動を重視しています。毎回WebCTに感想を投稿させて、それを匿名で次の授業のテキストにしています。こうすると各自の感想をクラス全員で共有でき、また、答えを「みんなで」創り出していくという感じになるので、学生の励みになっているようです。

LT 知識を積み上げるタイプの科目とは違った授業の形態なのでしょうか。

土屋先生 この科目は、知識やスキルではなく、理念的なもの、人間的なもの育成に主眼を置いています。人と向き合って対話し、真に人と話す経験をさせたいと考えています。また、一年生のうちに、

授業にきちんと出て学ぶことで、成果が出るといったことも覚えてもらいたいと思います。そのため、学生の投稿には必ず返信して

いて、内容によっては個人的な指導もします。

LT 授業の形態に合った活用をされているのですね。お使いになってみていかがでしょうか。

土屋先生 まず、紙のプリントを刷らないのでコピーの時間をとられなくなりました。また、授業を形成するいろいろな活動、毎回の感想のまとめや公開などが「楽に」できるようになりました。WebCTだと自宅からも返信できますし、クローズドな環境なので安心して使えます。打ち切りの時刻を明確に設定できるのもよいですね。

LT 学生からの提出物がWebCTに集約されていると加工もしやすいですし、授業履修者だけに公開できる点も安心ですね。ありがとうございました。



WebCTの自動採点機能を活用したテストの実施

法学部法律学科の喜多康夫先生にお話をうかがいます。

LT どのようにお使いになっているのでしょうか。

喜多先生 国際公法、国際経済法などの4科目で使っています。

WebCTのテスト機能を使い、5月と6月の2度にわたって、練習問題を10問ずつ出題するテストを実施しました。問題の形式としては、選択問題や整合問題、穴埋め問題を出題しています。このテストは何度でも受けることができ、これらを受けた学生のみが本番のテストを受けることができます。6~7月には、20問の本番テストをし、結果は成績評価にも用いています。その他、コースコンテンツとしては、Webリンクや資料を載せて学生に提示しています。

LT お使いになってみていかがでしょうか。

喜多先生 今回出題した問題形式の選択問題、穴埋め問題等は、あらかじめ設定しておけば自動採点が

できます。100人前後の履修者がいるクラスでも採点が短時間にできるところが、とてもいいですね。また、学生がWebCTを活用してきちんと学習できるように、最初に図書館の情報学習室でテストの受験方法を学ぶ時間を設けました。

LT すぐに採点ができる点は先生にとってもメリットですが、早めにフィードバックすることで、どの問題の理解が足りないか学生自身がわかるので、学生にとっても大きなメリットがあると思います。今後はどのようなことをお考えでしょうか。

喜多先生 出席管理システムと連携して出席のデータも一緒に扱うことができればと思います。また、今後の課題として、テストの内容をフォローする教材を準備したり、テスト問題の質の向上をはかっていくことを考えています。

LT 理解に合わせた教材を学習できるコースになりそうですね。ありがとうございました。

電子出版と教材作成における著作権処理



大学教育におけるICTの活用が進み、電子教材の流通や教材の電子出版についても具体的な取り組みがはじまりつつあります。このような中で、LT開発室では、2008年7月に「大学教育と著作権」、9月に「ICT時代の教材作成と電子出版」といったタイトルでLTセミナーを開催してきました。

著作権に関して言うと、教材作成時の著作権処理が教職員に強く求められつつありますが、現状多くの大学ではこれに応えられる状況ではありません。また、ICT活用教育の代表格であるeラーニングに対応する著作権関連の法整備は、我々教育機関側から具体的な提案を出せていないことから、一向に進む気配がありません。このような中、例えば、メディア教育開発センター(NIME)は、全国各地の大学との共催で「教育著作権セミナー 大学等におけるICT活用教育と著作権」を2008年6月～9月の間に10件開催しており、著作権処理に対する全国の大学の関心の高さが伺えます。

著作権処理というとなかなか大変そうに思われるか

も知れませんが、実は大学教育という環境条件に限定してしまえば、多くの場合、あまり複雑な処理にはなりません。ポイントは、我々教職員が基本的な処理のガイドラインを抑えておくことです。

この度、9月のLTセミナーの講師であるオーム社 森 正樹 氏のご厚意により、教材作成のための著作権処理において参考になるガイドラインを学内限定で閲覧していただくことが可能になりました。ラーニングテクノロジー開発室の学内限定サイトにアクセスして、利用条件を確認の上、ご活用ください。

教材の電子出版に関しても、オーム社等の出版社と連携して、具体的な取り組みを検討していきたいと考えています。是非、電子出版に関する期待やニーズをお寄せください。

著作権ガイドラインおよび教材の電子出版に関してのお問い合わせは、以下のアドレスにお願いいたします。

LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

お知らせ

◆ Bbカンファレンス2008 in 沖縄

～学生主体の学習環境構築に向けて～

Bbカンファレンス2008 in 沖縄が、11月28、29日にルネッサンスリゾートオキナワにて開催されます。詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.csk.com/sys-nishi/seminar/bbc2008.html>

◆ 情報教育研究集会

情報教育研究集会が、12月12、13日に、北九州国際会議場にて開催されます。詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://conf2008.isc.kyutech.ac.jp/>

◆ 学会、大会等参加報告

以下の3件の学会、大会に参加しました。報告の詳細は、LT開発室のウェブサイトをご覧ください。

・私情協 教育改革IT戦略大会

9月2～4日にアルカディア市ヶ谷にて開催。

本学からは、中村講師、古川助教が発表を行いました。

・教育システム情報学会 第33回全国大会

9月3～5日に熊本大学にて開催。

本学からは、渡辺准教授が発表を行いました。

・情報処理学会 第9回CMS研究会

9月11、12日に関西大学千里山キャンパスにて開催。

本学からは、高井助手が発表を行いました。

2009年度から教育基盤システムがさらに使いやすくなります

— 講義ビデオ作成・配信システムとシングルサインオンサービス —

宇都宮キャンパスで導入予定の講義ビデオ作成・配信システムを利用することで、学生は視聴したい部分にこれまでよりもスムーズにアクセスしたり、教員はこれらのアクセス状況を詳しく把握したりすることができるようになります。もちろん、従来と同様に講義ビデオの作成や配信につ

いて、LT開発室がサポートいたします。また、この配信システムやWebCTなどのウェブサイトを利用する際のログイン操作を一本化する、シングルサインオンというサービスを提供予定です。

導入時期が近づきましたら、あらためて詳細をご案内いたします。

編集後記 先日、湯西川温泉に行ってきました。山の上の方は紅葉がきれいに色づいて今が見ごろでした。初めて囲炉裏で魚やお肉を焼いて食べましたが、あれはじっくり我慢できる人でないと難しいですね。待ちきれずにできるだけ炭に近づけて焼いていたら、そのまま倒れて真っ黒になってしまいました。あせってもいいことはないですね。(及川)



ラーニングテクノロジー開発室連絡先 <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/>

宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 202室 028-627-7243 (直通)

◇一般的なお問合せ: LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇技術的なサポート: LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇室員: 熊澤 弘之(室長), 渡辺 博芳, 古川 文人, 高井 久美子, 及川 芳恵, 柳田 京子

